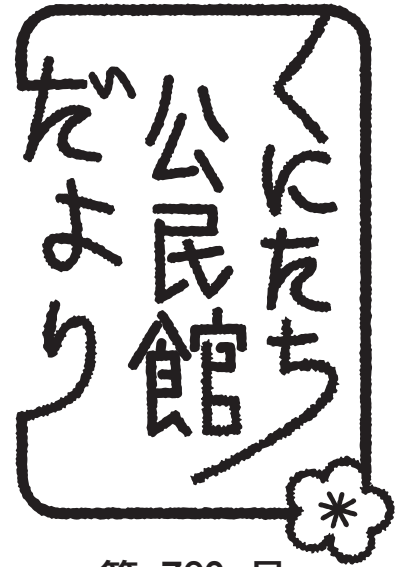


【講演要旨】近現代史講座(2023年2月19・26日実施)

ウクライナ・ロシア関係の現代史

講師 鶴見 太郎(東京大学)

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から1年が経った今年2月、2回連続の近現代史講座が行われました。今回は講座の第1回「ウクライナとロシアをめぐる歴史と歴史観」の内容をお届けします。



第 760 号

2023年6月5日

(令和5年)

「くくにたち公民館だより」
ホームページのQRコード▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日



講師の鶴見太郎さん

■ロシア帝国前史

ロシア・ウクライナの関係は、9世紀〜13世紀、ロシア人とウクライナ人、ベラルーシ人共通の起源とされるキエフ・ルーシの時代にさかのぼりますが、全貌は明らかになっていません。モンゴル系の帝国の支配、トルコ文化の吸収など紆余曲折を経て、15世紀半ばには、のちにポーランドに取り込まれ合同の国となるリトアニア大公によってキエフ一帯が征服されました。ウクライナという呼び名は、地域あるいは辺境という意味合いで、リトアニアから見た向こ

う、と呼ばれていたのが固有名詞になっていったと言われています。

当時のウクライナ人は、基本的には農民です。ポーランド・リトアニアに土地を支配され、年貢を納めないといけない。その取り立ての厳しさから逃れようとした農民たちは「コサック」と呼ばれる武装農民としてまとまっていきました。けれど、コサックだけではポーランド国家に対抗するのは難しい。そこで、ポーランドのライバルであるロシア帝国と手を結ぼうという動きからコサックの国家をつくりますが、18世紀終盤に廃止、ロシアの直轄地になります。

■ウクライナ民族主義の弾圧

18世紀末のポーランド分割の際、ウクライナの中部地域はエカテリナ2世治世のロシア帝国に、西部はハプスブルグ家のオーストリアに併合されます。南下政策を進

めるロシアはオスマン帝国からクリミア半島を獲得、1783年に併合します。

ロシアはウクライナを取り込んだ後、ウクライナを独立させたい、言語や民族を全面的に出したい、というウクライナ民族主義に対し弾圧を行います。まず、ウクライナという呼称は認めませんでした。リトアニア支配下で呼ばれ始めた名前を使うことで、再びポーランド・リトアニアの支配下に戻るのではないかと恐れを持ったのだと思います。行政としては、ロシア人のことを「大ロシア人」と呼び、ウクライナ人のことを「小ロシア人」と呼びました。独自の民族であることを否定したのです。1876年には、ウクライナ語による出版や演劇なども禁止します。ウクライナ語がポーランド語の要素を含んでいたということへの警戒もあつたようです。

これはプーチン大統領の歴史観に似ていて、本来ウクライナはロシアなのに、ポーランドや西側に汚されてしまったという発想です。経済においても、早くからロシアが取り込んでいった東部・南部地域では工業化が推進され豊かになった、一方、西部地域は農業が主体で貧しく、ロシア人がウクライナは自分たちによって発展

したという自負を持つ背景につながっています。

■ソビエト連邦とウクライナ

第一次世界大戦中の1917年、ロシアでは2回革命が起こります。1回目の「2月革命」は、自由主義者と社会主義者がタッグを組んでツァーリ(ロシア皇帝、ロマノフ王朝ニコライ二世)を倒した革命です。帝政が崩壊し、政治的な自由化が拡大、民族運動も活性化しました。ウクライナ民族主義、ウクライナ語の使用も自由化します。雲行きが怪しくなったのが「10月革命」。これまで自由主義者と社会主義者が並行して政権を担っていたところに、ボリシェビキ(赤軍)が蜂起し権力を奪取、内戦へとつながります。ウクライナではいろいろな勢力がこの地域をめぐる入り乱れ、人口の大半を占める農民もボリシェビキに期待する者、民族主義者に期待する者、自ら立ち上がる者と、内戦は複雑化し、一つの方向にまとまる状況ではありません。成り行きの中で、今までポーランドの影響が強かったリヴィウなどの西部地域はポーランドに、ロシア帝国時代にロシアが支配していたところは結局、ソ連に組み込まれることになりました(ごく一部はルーマニアに併合)。

■ソ連加盟と民族政策

1920年代を中心に、ソ連は各民族を宥和するため「現地化政策」を敷きます。ウクライナではウクライナ人を優先登用する、ウクライナ語を学校や公的な場面で使うなど自由にさせるだけではなく、国がお金を出して文化も推進しました。

ところが、スターリン時代の中盤から後期にかけてこの政策は形骸化していきます。1932年から33年には、ソ連の政策としてウクライナ農民に対する強制的な集団化や強制徴収が行われ、結果的に大飢饉を招きました。これをウクライナでは「ホロドモール」と呼びます。当時は隠蔽されましたが、ソ連崩壊後はウクライナ人を狙い撃ちにしたのか、結果的にそうなったのか、ウクライナとロシアの間で論争があります。

スターリンの次の書記長・フルシチョフは、ウクライナに友好的な人でした。1954年にはウクライナへの友好関係の印として、当時ロシア共和国の州であったクリミア州を、ウクライナ共和国に移管しました。ただ、プーチン大統領などは移管は間違いだった、もともとあれはロシアなんだと強調するわけです。

1980年代にゴルバチョフが

始めたペレストロイカ初期において、ウクライナでの独立運動は盛んになっていきました。バルト三国の独立などもあり、終盤には独立へ舵を切ります。その当時、ソ連はそのまま消滅しましたが、それを実質的に受け継いだロシア共和国も、ウクライナが離れていくことに対して、特に強硬策は取っていませんでした。ウクライナ・ロシア関係は、比較的平和裏にその後も進んでいくことになります。

■ソ連崩壊とロシアの体制転換

ここからはソ連が崩壊した後、ロシアとウクライナがどういう歩みを取ったのか、ロシアのほうから見ていきます。

まず論点の1つ目は、冷戦の終結は和解なのか、西側の勝利なのかということですが、ゴルバチョフが、西側との協調を目指していたことは間違いなく、これは非常に希有なことだったと思います。経済の行き詰まりの深刻化が背景にはあって、西側の支援がないとう野垂れ死んでしまうという状況だったので、現実的な動きではありました。

そのゴルバチョフでも、東ドイツが西ドイツに吸収される形でドイツ統一は想定外でした。そこで和解というもののへの懐疑が出て

きた。一方、西側は当然、西側の勝利の結果だというふうに捉えていたわけです。でもゴルバチョフとしては、自分から歩み寄って、この分断を打開したという自負があり、認識のずれが始まっていた。

さらに、ソ連が解体まで行くということは、ゴルバチョフも想定外のことではあって、急激に解体へ向かっていって、止められなくなってしまうわけです。

■チエチエン紛争の経験

ソ連という大国が崩壊した後の、処理の問題を見ていきます。ソ連は当初体制を強化するためにいろいろな民族を取り込み、宥和をしていったという歴史があります。

その名残で、15の共和国の下の単位の自治共和国とか自治州というものがあり、その制度はソ連崩壊まで残っていました。その自治共和国の中で、民族主義や独立の動きが出てきます。

一番有名なのはチエチエン紛争です。チエチエン共和国というのは、ソ連時代にチエチエン・イングーシ共和国と言って、ロシア共和国の下にある自治共和国でした。

ムスリムが大半で、ロシア帝国時代から組み込まれていたのですが、ずっと折り合いが悪かった。ソ連

崩壊のタイミングで、共和国は独立したのだから、自治共和国もいじやないかと独立しようとしたのです。ところが、暗黙の了解として自治共和国はどことも独立しておらず、新生のロシア連邦はあくまでも弾圧しました。

プーチン大統領の時代になると、改めてチエチエンの独立勢力を徹底して武力で潰し、かいらい国家に変えてしまいます。武力での徹底的な弾圧により取り込むところまで至るのは非常に希有な例ですが、ある意味、それがプーチン大統領の成功体験のようになってしまっているのではないかとも思います。

次に、ロシア国内の問題について少し触れたいと思います。

■経済の混乱とオリガルヒの台頭

次に、ロシア国内の問題について少し触れたいと思います。体制転換に伴い、特に1990年代は非常に生活が苦しい時代でした。社会主義体制から急に、市場経済に転換したことによる不具合が、いろいろなところで起こります。

社会主義では、ソ連が一つの大きな企業でした。ソ連の中で企業と呼ばれているものは、我々が知っている企業の営業部門とか、生産部門のようなものでした。もし、企業で部門だけ独立させると、ち

よっと困ってしまいますよね。同じことが、ソ連を解体したときに起こって、泳ぎ方を知らないのに市場という海に突き落とされてしまった。だから、今から見れば性急でずさんな民営化政策がなされました。

その際に、一握りのずる賢い層が、企業を私物化して新興財閥になったというのも、もう一つポイントです。それが今、「オリガルヒ」と呼ばれる人たちになりました。

90年代、エリツィンが大統領になったわけですが、政治的な基盤が非常に弱かったので、選挙に勝つために、オリガルヒの力が必要とされました。おかしなことを見逃したり、場合によっては法律で後押ししたりするぐらいのことをしつつ、オリガルヒから資金援助してもらおう。これが、今日のロシアにおける政治と経済の癒着の原点ということになります。

一部のオリガルヒだけが暴利を働いている、これは道徳的に破綻したような状況です。本来は政府が取り締まらないといけないのに、エリツィンはむしろ自由にさせてしまっている。これを何とかしてほしいというのが、多くのロシア人が持っていた思いで、プーチン政権のような強い政府、力、国家の力というのを求めてしまう背景



ウクライナと周辺国の地図

がここにありません。

■体制転換期のウクライナ

ウクライナは、ロシアと同じか、それ以上に混乱していました。ウクライナは1人当たりのGDPは、ロシア人の3分の1ぐらいで常にロシアより貧しい状況です。

体制転換が起こると、もともと貧しい人たちがもっと貧しくなつて、大混乱になりました。これは、ソ連という単位がなくなったせいでもありません。ソ連は、分業体制を共和国単位で敷いていて、ウクライナ共和国は農業もありますが、鉄鋼業とか、主にソ連のための軍需品を担当していました。だから、ソ連がなくなれば買ってくれる人がいなくなる。ソ連式の旧式なので、ほかの国もあまり買ってくれ

ません。エネルギーもロシアに依存せざるを得ず、対ロシア債務も重荷になっていく状況がありました。

政治外交に関しては、初代大統領になったクラフチュクという人は、ウクライナを前面に出し、独自通貨を導入するなど象徴的にロシアからなるべく離れるウクライナ化を進めました。ただ、これは大失敗で、余計に経済は混乱し、経済危機に陥って失墜しました。

ロシアとの関係では、クリミア半島にある軍事基地の帰属や核兵器の保持をめぐる対立がありました。この辺りが決着してからはそれほど政治的にもめる材料はなく、クリミアの帰属も、ロシアが文句を言ってくるということもありませんでした。もう大体のことは、ウクライナとロシアの間で決着しているはずだったわけですね。

■ウクライナ人の意識

社会というレベルで、ウクライナ人が自分たちを何人と考えているかという話を話します。ウクライナ人って、ウクライナに住んでいる人たちですね。ご存じのように、人口の2割ぐらいがいわ

ゆるロシア人、ソ連時代からずっと住み続けている人です。その人たちも含めて自分たちのことをどう考えているかという話です。

ソ連時代、人々は「民族」で登録されていました。国内パスポートというのがあって、ウクライナに住んでいても、ロシア人は民族名はロシア人となっている。それは親子代々受け継がれていくもので、基本的には変わらない。だから、ソ連時代、ロシア人は必ずしもウクライナと一体化はしていません。

独立後、ウクライナが一つの国になった後は、世代が変われば変わるほど、ウクライナとの一体感が、ウクライナに住んでいるロシア人の間でも高まっていったことは、調査を見ると明らかです。民族というのは血統ではなくて、どの国で生まれたのかという国民としての意識が変わっていったと見ることが出来ます。

ロシアへの親近感がある程度持ち続けているウクライナ東部のロシア人であっても、漠然と、日常的にロシア語を話していたりロシア文学に親しんでいたという意味で、緩やかに「ロシア的なもの」に親近感があるというだけであつて、ロシア国家の支配を望んでいないとか、ロシア国家の下で生きて

いとか、そういうこととはちよつと違うわけです。

■社会の変化や実態から国家を捉える

今日の話のまとめとして、特に注目していただきたいのは、ウクライナとロシア、及びその2つの関係性というものは、あくまでも変化するものとして捉えるべきだろうということですね。プーチン大統領は、キエフ・ルーシの古い時代から、あるいはソ連の初期、まだウクライナがどっちに行くか、いろいろ迷ったり割れたりしているという段階で、一応ソ連に入つた時期から、ウクライナは何も変わっていないかのように捉えているわけですね。しかし、いろいろなところに変化があり、歴史的なスパンで考えても、モンゴル帝国とかポーランドとかの影響も等しく受けていて、ロシアだけがウクライナにとって特別な存在ではなかったわけですね。

さまざまな関わりの中で、少しずつ変化したり、あるいはウクライナ人の中でも迷いがあつたり、そこで多様性も出てきたりしているの、ひとつかみにウクライナ人はこうである、ましてやウクライナ人はロシアと一体化するのが一番幸せだみたいな考え方は、無

理のある議論でしょう。

そういう視点を持つためには、領土や支配者だけではなくて、人々全般の変化、経済や社会の実態を見る必要があります。ウクライナは独立後にどんどん変わつていて、ソ連崩壊時点から思考停止しているように見えるプーチン大統領の認識と大分ずれています。これはロシア人がなぜプーチン大統領を支持するのかを考える上でも重要な視点で、ソ連崩壊後にどういう苦労をしたのか、何をしていたのかも見る必要があります。ウクライナは、ロシアとばかり密接につながってきたわけではないことは、歴史を見れば明らかです。ですから、プーチン大統領の念頭にあるのは、せいぜいソ連時代初期だけで、その昔の像を、すっかり変わってしまった現在のウクライナに投影してしまつていて、ということができると思います。これでは、ウクライナ人と認識が一致するはずがないでしょう。

【鶴見太郎さんプロフィール】
東京大学大学院総合文化研究科准教授。著書に、「ロシア・シオニズムの想像力」(2012年、東京大学出版会)、「イスラエルの起源」(2020年、講談社)など。

〈一橋大学・院生講座〉
文化のなかの「しょうがい」
—既存のイメージを超えて—

シネボックス
〈CINEVOX シネマトーク〉
『無法松の一生』
東宝 1958年 カラー 104分 DVD版

講師 寺沢 恕 (一橋大学大学院生*)

映画や文学には、しょうがいのある人々が度々描かれています。江戸川乱歩の『一寸法師』では、小人症の人物が悪の権化として登場し、映画『コーダ あいのうた』では、聴覚しょうがいしゃの家族の苦労が現実的に描かれています。これらの描写は、時に差別的な印象を与えることもあります。これらの描写は、時に差別的な印象を与えることもあります。これらの描写は、時に差別的な印象を与えることもあります。

この講座では、文学や映画におけるしょうがいに関する描写を、多様な視点から読み解いていきます。前半では、最近アメリカで盛んになってきている「障害学」に触れ、しょうがい描写の社会的解釈を試み、また、1930年代のアメリカ文学における「優生学」の影響にも言及します。後半では、山本周五郎の『季節のない街』や黒澤明の『どですかでん』などの作品に登場するしょうがい描写が、読者や社会に与える影響について、ワークショップ形式で共に考えていきます。

とき 6月18日、7月2日(全2回)
いずれも日曜日、昼2時～4時

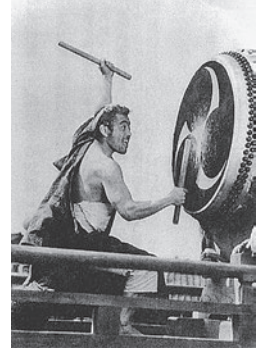
ところ 公民館 3階講座室 定員 24名(申込先着順)
申込先 6月7日(水)朝9時～ 公民館☎(572)5141

*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。

監督 稲垣 浩 原作 岩下俊作 脚本 伊丹万作
出演 三船敏郎、高峰秀子、笠 智衆、芥川比呂志 ほか

北九州の小倉を舞台に、博奕好きで喧嘩っ早い人情に厚い人力車夫・富島松五郎の生涯を描いた、不朽の名作『無法松の一生』(1943年)を監督・稲垣浩自らが再映画化。松五郎役の三船敏郎、松五郎が思いを寄せる未亡人役の高峰秀子の好演もあり、前作に劣らぬ名作に仕上がった。ベネチア国際映画祭ではグランプリを受賞。



〈シネマトーク〉
「やさしき無頼漢—世界のミフネと呼ばれた男—」
北里宇一郎 (脚本家)

上映終了後に、脚本家の北里宇一郎さんに、名優・三船敏郎の魅力についてお話をうかがいます。

とき 6月25日(日) 昼2時～(開場1時)
ところ 公民館 地下ホール
定員 70名(申込先着順)

申込先 6月15日(木)朝9時～ 公民館☎(572)5141
*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込みください。
*換気のため、途中で10分程度休憩を設けます。ご了承ください。

—2023年度 公民館講座・催し年間予定—

①現代社会の課題を考へる

- 憲法
- 人権
- 平和
- 近現代史
- 環境
- 自治
- 教育
- 共生社会
- 多文化共生
- ジェンダー
- 健康

②共生の地域社会を育む

- 女性のライフデザイン
- 女性のメンタルケア
- 男性の料理教室
- 親子で遊ぼう考えよう
- 中高生のための学習支援
- しょうがいしゃ青年教室
- 青年講座
- 青年室活動(コーヒーハウス)
- シルバー学習室
- ワークライフバランス
- 生活のための日本語講座
- 日本語教育入門
- にほんごサロン

③まちを知る、地域から学ぶ

- 緑化活動
- 野鳥観察
- 都市農業
- 地域資料
- 地域史
- 文学と地域
- 一橋大学連携講座
- 一橋大学院生講座
- 社会教育学習会
- 地域防災

④社会をみつめ、文化をつくる

- 古典
- 哲学
- 作家と作品
- 文化・芸術
- 食文化
- 図書室のつどい
- 映画会
- シネマトーク
- ⑤表現と創作を楽しむ
- 身体表現
- 銅版画
- 文章表現
- 市民文化祭

〈くにたちブッククラブ 記憶の欠片をひろい集めて〉

山田詠美『ファーストクラッシュ』

(文春文庫)

講師 榎本 正樹 (文芸評論家・現代日本文学)

とき 6月8日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 地下ホール

定員 30名(申込先着順)

申込先 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

～今年度ブッククラブ日程(4月号掲載)で、未定だった月の日にちが確定しましたのでお知らせします～

月日	作品	講師
11月9日(木)	今村夏子『むらさきのスカート』(朝日文庫)	佐藤 泉 (青山学院大学)
12月14日(木)	安部公房『箱男』(新潮文庫)	大野 亮司 (亜細亜大学)

いずれも、時間：夜7時半～9時半

場所：公民館地下ホール

〈青年講座〉

コーヒー焙煎体験講座 ～一緒にコーヒーを淹れてみよう～

お話と実演 小山 伸二 (辻調理師専門学校、書肆梓)

コーヒーはお好きですか？奥の深いコーヒーの世界を一緒にのぞいてみませんか。この講座では、コーヒーの生豆を自分で焙煎し、ハンドドリップでコーヒーを淹れてみます。また講師のコーヒー文化等のお話を伺いながら、コーヒーを試飲し参加者同士が交流する時間を過ごします。

お話と実演は、著書『コーヒーについてほとと詩が語ること』で古今東西の書物からコーヒー文化を紐解き、辻調理師専門学校などで食文化を講じる小山伸二さん。

会場は公民館内にある喫茶コーナー「わいがや」です。当日はわいがやのスタッフの若者たちも一緒に参加します。コーヒーの香りがふわりと漂うなかで、ゆったり語らう時間にしたいと思います。

とき 7月2日(日)昼4時～6時

ところ 公民館内喫茶わいがやなど

定員 5名(申込先着順)

対象 高校生～30歳代までの方

申込先 6月16日(金)朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



*青年講座とは？

公民館では、しょうがいしゃ青年教室や喫茶わいがやなど(総称「コーヒーハウス」)に様々な若者が関わって活動しています。青年講座は、そんな若者たちが企画した講座です。

〈健康講座〉

メンタルヘルスを考える

～働く世代と家族に向けて～

講師 大美賀 直子 (メンタルケア・コンサルタント、公認心理師、精神保健福祉士)

働く人の毎日には、ストレスがあふれています。また、ウィズコロナ、アフターコロナを通じて職場環境が劇的に変化しており、新たなストレスを抱えて疲れを感じている方も増えていることと思います。

自身のメンタルの状態を振り返り、ストレスと上手に付き合っていくために必要なことについて考えてみませんか？心理学をもとに、うつ病などの心の病を防ぐために必要なこと、ストレスを減らす考え方、家族や職場の人とのほどよい人間関係の築き方、困った時のサポート資源の頼り方などについても解説します。

ワークやディスカッションを取り入れていくため、ご自身でじっくり考え、また周りの人とたくさん意見を交わしあいながら、理解を深めます。働いているご家族のメンタルヘルスを考えたい方も、是非ご参加ください。

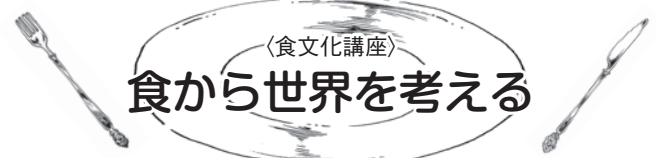
とき 7月8、15日(全2回)

いずれも土曜日 朝10時～12時

ところ 公民館 3階集会室

定員 16名(申込先着順)

申込先 6月15日(木)朝9時～ ☎ (572) 5 1 4 1



〈食文化講座〉

食から世界を考える

講師 小山 伸二 (辻調理師専門学校、書肆梓)

自分が食べようとしているその一皿ができるまでには、どんな経過があったのでしょうか。食材の生産者や料理人、器や景観、これまで積み上げてきた伝統など、そこには様々な人々や物事が関わっているのかもしれない。

今回は、「おいしい」ということは何か、過去から現在までの食の歴史、日本列島の地理的条件と食文化の特性とは何かなど、食文化にまつわる総論的なお話をさせていただきます。

講師の小山さんは、料理を中心としてそこに関わるあらゆる文化的要素を考える学問「ガストロノミー」に長年携わってきました。これまで辻調理師専門学校や立教大学でも様々な角度からこのテーマについて講じられています。

多岐に渡るテーマですので、小山さんには9月以降にまた別の角度から食文化についてお話いただく予定です。

誰もが関わる身近なテーマである食について改めて考える機会となれば幸いです。

とき 7月15日(土)昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(申込先着順)

申込先 6月13日(火)朝9時～ ☎ (572) 5 1 4 1

新しい発行物のご紹介

公民館の取り組みなどをまとめた冊子ができました。お読みにになりたい方は公民館へお問い合わせください(配布用は数に限りがあります)。ご覧いただきまして、ぜひ、今年度の取り組みにご参加ください。

くにたちブッククラブ 『感傷から遠く離れて』

くにたちブッククラブでは、毎年講座終了後に参加者による手作りの文集を作っています。文学作品を共同で読むことで深められた読みや気づきが綴られています。

講師の山岸郁子さんによる講義録「井上荒野『あちらにいる鬼』を読む」も掲載しています。



青年室活動記録誌 『コーヒーハウス 73号』

コーヒーハウスは公民館の1階奥にある「青年室」・喫茶コーナー「わいがや」など、しょうがいを含む様々な若者たちの活動です。

2021(令和3)年度～2022(令和4)年度の活動の様子を紹介しています。

編集を主に担当したのは、コーヒーハウスに関わる若者たち。また、今回はコロナ過のなかでの活動で考えたこと・感じたこと……それぞれの思いが詰まった“みんなの文集”も掲載しています。



『第67回 くにたち市民文化祭 —記録集—コロナ下の笑顔広げる文化祭』

2022(令和4)年度の文化祭に参加した団体が催しの成果を報告しています。市内で文化・芸術活動をしている方々の、文化祭での写真も多く載っています。



こちらの発行物は右QRコードの公民館ホームページ「近年の公民館実践記録冊子の紹介」からも、ご覧いただけます。



令和4年度 公民館の施設利用状況について

公民館は社会教育施設として、市民等で構成されるグループや団体に会場を貸し出しています。活動目的や人数に応じて、大・中・小の集会室、講座室、ピアノのあるホールと音楽室、調理のできる実習室、着付けや茶道のできる和室の8つの部屋があります。なお、和室では机と椅子を使用し、実習室では間仕切りを活用すれば会議室としても利用できます。

令和4年度の時間帯別会場利用率は以下の表のとおりです。

ホールの利用率は平均90.3%と最も高く、次に音楽室が平均81.5%、続いて、中集会室、講座室、集会室、和室、小集会室、実習室の順となっています。新型コロナウイルス感染症の流行により低迷していた会場全体の利用率は63.2%となり、前年度の59.9%から若干増加しました。

多くの方に会場を利用していただけるよう、毎月第一土曜日に会場利用調整会を公民館利用者連絡会のご協力のもと開催しています。詳しくは7ページをご覧ください。

■令和4年度 時間帯別会場利用率

(単位%)

会場(定員) 時間帯	ホール (85名)	音楽室 (20名)	集会室 (30名)	講座室 (35名)	中集会室 (20名)	小集会室 (10名)	和室 (20名)	実習室 (10名)
午前	93.2	87.4	69.6	80.0	84.8	60.0	69.2	63.6
午後	90.6	85.5	75.4	81.5	76.7	65.9	83.5	47.1
夜間	88.3	76.2	49.7	42.6	42.2	39.4	31.5	14.2

(注)利用率の算出処理上1日の利用時間を、午前・午後・夜間の3区分に整理。1区分に複数回の利用があっても1回分の利用とみなして利用回数を算出し、この算出数を年間延べ開室回数で割り、利用率を算出している。

公民館5年度予算について

公民館予算は、1億6,051万3千円で内訳は表のとおりです。前年度比3,665万4千円の増額となりました。主な理由は、原油価格高騰の影響による光熱水費の増額、トイレ洋式化や段差解消機、非常放送設備等の工事請負費の増額等によるものです。

■公民館費の当初予算内訳

単位：千円

科目	4年度予算	5年度予算	比較増減
公民館総務費	95,635	129,855	34,220
人件費	55,637	65,965	10,328
報酬等	17,619	17,438	-181
維持管理費	22,379	46,452	24,073
公民館事業費	28,224	30,658	2,434
主催事業費	14,563	15,846	1,283
広報費	7,407	8,347	940
図書室費	3,356	3,566	210
若者支援費	2,898	2,899	1

■一般会計予算357億2,300万円(前年度比29億8,300万円増)

■教育費総額62億1,515万7千円(前年度比32億4,232万4千円増)

■公民館費1億6,051万3千円(前年度比3,665万4千円増)

8月(ロビー9月分) 会場調整会のお知らせ

申込書のポスト投入期間	6月3日(土)～22日(木)
公用使用の貼り出し	6月9日(金)頃
予約の重なりがあった団体の掲示開始日	6月24日(土) 重なり状況▶
会場調整会	7月1日(土)朝10時～

※会場調整会は朝10時までには受付を済ませてください。

第68回くにたち市民文化祭 開催期間が決まりました!

今年のくにたち市民文化祭の実行委員長と開催予定期間が決まりました。今年はコロナ前と同水準の20組を超える団体が参加予定です。各参加団体の日程や行事の内容については、公民館だより10月号等でお知らせします。

文化祭の参加申し込みは次回実行委員会まで受付いたしますので、参加希望の団体は公民館にお問合せください。

◆開催予定期間

令和5年10月21日(土)
～11月26日(日)

◆実行委員長

鈴木 幸雄
(フルーツアンサンブル「桜音の会」)

◆次回実行委員会

とき 6月15日(木)夜7時～
ところ 公民館 地下ホール
問合せ 公民館 ☎ (572) 5141



ひろば



(8ページにもあります)

アクアかもめ水泳会員募集

運動不足の方、健康な体づくりに水泳を始めてみませんか。初心者より上級者、泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問いません。体験可。(無料)

日時 毎週金曜日 朝10時～12時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 梅原(572) 2281

くにたち話し方勉強会

人前で話をしようとする緊張してしまったり、ここに集まってくる人たちの理由は様々。年齢も様々。私たちと一緒に話す事、聞く事を勉強しませんか?見学歓迎。

【習字】を始めてみませんか

やさしい講師が分かりやすく指導してくださいませ。楽しく学びながら自分を更に高めてみませんか。お気軽にご連絡・お立ち寄りくださいませ。くにたち親墨の会

日時 第1・3(火) 朝9～12時
場所 芸小ホール アトリエ
連絡先 佐藤(2165) 3427

社交ダンス銀のくつ会員募集

社交ダンスに興味のある方の入会を募集しています。プロの講師のもとでやさしいステップから応用のステップまで学習します。初心者、男性歓迎。体験可能です。

リコーダの会「木星」会員募集

誰でも吹けるリコーダで音楽を楽しみませんか。12月の発表会に参加し、リコーダのアンサンブルを楽しんでいます。初心者大歓迎。先生が親切丁寧に指導します。

日時 第2・4木曜日 夜7時～
場所 公民館 音楽室
連絡先 畑(573) 0678

公民館運営審議会報告

5月9日(火) 第34期第7回定例会を開催。委員13名、館長、職員2名出席。傍聴人3名。
○最初に学校教育関係者の後任として第八小の鈴木淳副校長に館長より委嘱状が伝達された。その後前回議事録の確認が行われた。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会に関する報告があった。社会教育委員の会では4月の任期最終回が開催され、「横断・連携」を通じた生涯学習振興について(意見)を教育長に提出。その概要について報告があった。東京都公民館連絡協議会では町

田市・日野市が脱会し加盟9市に。今年度は国立市が委員部会の部長市のため、10月に委員部会研修を国立市で開催予定。2024年2月の研究大会では課題別学習会を国立市を中心に委員部会として企画・準備する。

協議事項

○市長・教育長への要望書提出については、提出時期などについて継続審議となった。

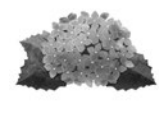
委員研修

○今回は木島委員長が「くにたち公民館の歩みと特色」私の中の公民館」として、個人を軸にした公民館との関わりを話し、その後研修を終えての感想・質問を各委員が出しあった。

次回6月13日(火)夜7時15分から地下ホール。傍聴歓迎。(西尾)

ひろば

(7ページにもあります)



国立真向法体操同好会

真向法体操は自然治癒力を高めます。股関節を中心に呼吸と合わせて運動する、たった4つの動作の体操。会員9名、楽しい雰囲気です。見学にどうぞ。

日時 第2・3・4日曜日午後
場所 東福祉館 大広間
連絡先 田野崎090(3877) 63226

フルート会員募集『桜音の会』

秋の市民文化祭での演奏会に向けて、一年かけて曲を仕上げたいです。フルートの好きな方、私達と一緒に合奏を楽しみませんか？

日時 第2・4火曜日 夜6時
場所 富士見台地域防災センター
連絡先 橋本090(7178) 6380
メール funkyhassy@gmail.com

楽しく歌おう「ひまわりの会」

指導の先生はピアニストで、表現豊かな演奏で参加者を曲の世界へ引き込み、また歌う楽しさを感じさせてくれます。童謡、唱歌、日本や世界の名曲を歌います。

日時 第2、4水曜日 朝10時
場所 北市民プラザ多目的ホール
連絡先 新里(577) 1062

水彩画「パレット」作品展

サークル会員による第17回作品展を開催いたします。今回も日頃楽しみながら描いている作品を、展示いたしますのでご覧ください。

日時 6月10日(土)～17日(土)
(12日(月)休館)
場所 公民館 市民交流ロビー
連絡先 吉田(525) 5930

くにたち国際友好会WING

6月の国際理解講座は、ネパール出身で東京YMCAに留学経験もあり、子供達の教育活動をされているクリシユナさんに、ネパールからお話を頂きます。

日時 6月17日(土)夜7時～9時
場所 公民館 講座室&Zoo m
連絡先 西江070(9020) 7838

今月の公民館 (6月～7月中旬)

- 8日(木)夜 ブッククラブ 山田詠美『ファーストクラッシュ』
 - 18日(日)昼～ 院生講座「文化のなかの「しょうがい」
—既存のイメージを超えて—」
 - 25日(日)昼 シネボックス シネマトーク『無法松の一生』
 - 25日(日)昼 ★図書室のつどい
『水のない川』^{あんきよ} 暗渠でたどる東京案内
 - 7月2日(日)昼～ 青年講座「コーヒー焙煎体験講座」
 - 8日(土)昼～ 健康講座「メンタルヘルスを考える」
 - 15日(土)昼～ 食文化講座「食から世界を考える」
- ★はオンライン受講可能の講座です。

「ひろば」欄について

「ひろば」欄は市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。各団体に公平に紙面をご利用いただくために、以下投稿規定をご確認ください。

◆投稿規定

ひろば欄に掲載できるのは各団体3ヵ月に一回です(例えば6月号に掲載した場合、次に掲載できるのは9月号以降になります)。

※紙面の都合により、翌月掲載となることがありますので、ご了承ください。

◆掲載方法

原稿用紙は、公民館2階受付でお渡しします。原稿の締切りは、掲載希望月の前月7日の午後5時です(7日が月曜日の場合は、翌日8日まで)。イベントの案内は、原則として掲載月の7日から翌月6日までのお知らせを掲載します。

〈サークル訪問380〉 オトモ

地下ホールから聞こえる子どもたちの楽しそうな声……取材日は、幼稚園がお休みで、コーラス、ハンドベル、サークル「オトモ」のメンバーのお子さんたちも一緒に来た。

この会は、コロナ下で、今までのように歌うこともおしゃべりすることも出来なくなつた子どもたちに音楽の楽しみ、日本語の美しさを伝えたいと、昨年9月に二期会会員の西川友子さんが、立ち上げた。まさに、「オトモ」は、音と友だちになろうと付けられた思いのこもつた名前だ。今は西川さんと同じ幼稚園仲間のお母さんを中心に8名で無料のコンサート活動をしている。

西川先生のレッスンはとてもユニークで楽しい。まずは、目を閉じて息を吸って吐いて、心臓の鼓動を感じて……まるでヨガのように日本古来の手遊び歌などの手指の運動から体全体をほぐして、いよいよハンドベルの練習だ。

ハンドベルは、1つのベルは1音程しか出すことが出来ないのひとりでいくつかのベルを担当しピアノの伴奏に合わせて演奏する。協調性と集中力が、透明な美しい音色を創りだしていく。



西川先生(中央)を中心にハンドベルのハーモニーを奏でる。

場所 公民館地下ホール/音楽室
連絡先 otomo.ototomo@gmail.com
〈文・写真 高木 裕子〉

ただ今、世代を超えて新しい仲間を募集中！ぜひ一緒に♪
日時 月2、3回水曜日が基本
朝9時半～11時半

コーラスの前には、壁に向かってシュツ、シュツ！と声を飛ばす。まるで手裏剣をなげる忍者のよう。こうして声が滑らかなつたところで、「となりのトトロ」「一年生になつたら」などを歌う。「聴いている人に話しかけるように自然に」と指導されると、歌詞が心に届いてくる。合間の休憩は、交流を深める大切な時間であり、和気あいあいの雰囲気を作っている。当面の目標は、9月20日(水)の芸術小ホールでのランチタイムコンサートだ。このチームワークなら素敵な演奏が聴けるはず、とても楽しんだ。